



# 空知合同教育研究集会開催

## 『大浦湾の小さな貝殻が教えてくれたもの』



9月30日(日)、午前は、奈井江町公民館において、二〇一八年度空知合同教育研究大会が開催され、小中の教育関係者をはじめ空知地区の住民が一堂に会し、今を取り巻く教育の課題について活発な意見交換をしました。

### 沖縄基地問題の一番の敵は「米軍基地を沖縄に封じ込めたい」日本国民の無関心では?



「20・30代の若者の選挙行動が勝敗を決める」

「今回の知事選の勝敗の行方についてはマスコミ各社の世論調査は「ほぼ互角」と報じているが、互いの陣営の基礎票に目を転じてみると、前回の翁長候補で闘ったときと比べ、前回の自主投票の公明が今回相手候補支持を鮮明にした他、前回候補者をたてた維新の会が今回立てなかつたために基地賛成票が分断されなかつたなどの条件から、その基礎票だけを見れば、勝つ見込みがない選挙であると言わざるを得ない。では、なぜマスクが実現した。

わってきた、勤医協介護士の齋藤丈士さんの講演。

「沖繩の海・空・命を守るう！共に声を上げよう！」をスロークンに沖縄県民大会が開催された。

「沖繩の海・空・命を守るう！共に声を上げよう！」をスロークンに沖縄県民大会が開催された。

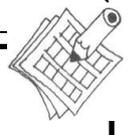
「沖繩の海・空・命を守るう！共に声を上げよう！」をスロークンに沖縄県民大会が開催された。

おもしろも当日は沖繩知事選の投票票日ということもあり、その内容に注目が集まりました。

はじめに自己紹介の中で、「東京・京都で出版会社や養護学校で勤務していた時に参加した市民運動で培った人との関わりが、後に札幌の勤医協で働きながら沖縄の基地反対闘争に関わることになったことに大きく影響し

今年8月11日「沖繩の海・空・命を守るう！共に声を上げよう！」をスロークンに沖縄県民大会が開催された。

しかし、このベクトル社は何十億規模の工事業しか請け負わない世界最大級の建設会社である。有名などころでは、湾岸戦争後のクウェート復興・英仏海峡トンネル・新ドーハ国際空港の建設：日本でも青函トンネル・六ヶ所再処理工場設備・羽田空港西側旅客ターミナルビ



### くずさんの 夕張歴史散歩 (98)

明治維新 開拓使余話 ②  
開拓使麦酒醸造所

前回、開拓使余話として開拓使時代のシンボルとも言うべき五極星について見ました。

開拓使麦酒醸造所については、一八七六年(明治9年)村橋久成\*や中川清兵衛らによって開発され、一八八六年(明治19年)大倉喜八郎らに払い下げられ、札幌麦酒醸造所となります。現サッポロファクトリーです。

#### 札幌製糖会社

一方このころ、資本主義の中心産業として製糖事業は脚光を浴びていました。道庁も、この事業を一八八八年(明治21年)に、札幌製糖会社に払い下げます。

この会社の初代社長に就いたのは、なんと北炭社長の堀基の甥にあたる堀宗一なのです。ここでも薩関と縁故からみの払下げです。

この札幌製糖会社は、放漫経営に加え内部抗争も起こり、株券の偽造事件も摘発され、

次期社長と幹部が逮捕監禁されています。結局、会社は札幌麦酒醸造所が買収し、サッポロビールとなっています。

#### アイヌ民族の共有財産の詐取

また、当時の薩関を中心とする道庁理事官たちは、北海道アイヌ民族共有財産を管理委託されていました。北海道製糖会社と札幌製糖会社の設立にあたって、その財産の多くを株券に替えるのです。その会社が破たんしてしまい、多くのアイヌ共有財産を失います。

当然アイヌの激しい返還の声が起こり、また「製糖会社不始末」事件と重なり、政治問題となります。明治維新・明治政府の闇の一断面です。

\* 村橋久成 払下げの一連の動きに唯一反対した硬骨の士



岩渕友「国会かけある記」  
参議院議員  
岩渕友

#### 選挙勝利へギアチェンジ

翁長前知事の遺志を継いで辺野古新基地建設反対を訴える玉城デニーさんが、官邸丸抱えの相手候補に勝利した沖縄県知事選挙。先日、デニー新知事が国会の日本共産党控室にあいさつに來られました。議員団は嬉しさ爆発。拍手と歓声で迎えました。14日投票の沖縄県豊見城市長選挙でも、「オール沖縄」の山川仁市長が誕生。沖縄県知事選挙の結果は、市民と野党が本気の共闘を行えば、安倍政権を倒すことができるといふ展望を示しました。民意を踏みにじる政治はもう終わりにしたい。

13、14日に行われた第5回中央委員会総会では、当面するたたかひの最大の課題として、安倍九条改憲阻止と来年10月の消費税10%増税中止を提起しました。その翌日、安倍首相は自衛隊観閲式で9条に自衛隊を書き込むと言ひ、消費税増税方針を表明しました。いよいよ臨時国会も開会となります。民意を踏みにじる安倍政権に、世論と運動、共闘の力で対決していく正念場です。

5中総では、紙智子参院議員と島山和也前衆院議員が、北海道地震での党の奮闘と参議院選挙勝利の決意を発言しました。「使える制度はすべて使う。制度になつていなくてもあきらめず切り開いていく」。現場の声を誰よりも聞き、その願いがどれだけ切実なのか分かるからこそその決意。この決意にこたえたい。

統一地方選挙・参議院選挙勝利へギアチェンジを。安倍政権を倒し、自民党政治を終わらせるときです。

この理不尽な現状を許す根拠が日米地位協定であることは言うまでもないことだが、この日米地位

戦後、駐留米兵による沖縄県民に対する蛮行が繰り返される上、その元凶である米軍基地の恒久化が進められている。「なぜ、沖縄だけが...」

沖繩の最大の敵は、日本国民の無関心

多くの大規模工事に携わっている。このベクトル社、歴代の共和党政権との関わりが濃く、幹部から政府高官に出向したり、政府高官がベクトル社の幹部の天下る構造が出来上がっている。実は、辺野古基地工事も、このベクトル社が請け負うことになっていて、そのことはベトナム戦争の時に決められていたという事実があることも見逃してはならない。

協定を読んでみると、米軍基地の設置場所を沖縄に限定するなどという一言も書かれていない。つまり、日本のどの場所にも基地が移転されてもかまわない内容になっている。もし、自分の住んでいる地域に米軍基地を移転することになったらどうするだろう。日本国民の心の中に、「基地を沖縄に封じ込めておきたい」という心情が働いてはいないのか。だから、地位協定を破棄させる運動の高まりが弱いのではないのか。

沖繩の最大の敵は、日本国民の無関心ではないのか? | という言葉で講演を締めました。午後からは、『学校・子ども・教師』『地域・家庭・くらし』『特別支援教育』の三つの分科会に分かれ、それぞれのテーマについて論議を深めました。